特定課題研究：技術経営プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ

担当教員

石井宏宗（専任）

指導の基本姿勢

NIT MOTで修得した知見の集大成として、特定課題研究を創造し、その成果を実務に展開しようと、挑戦する院生と共に、「互学互修」を基本姿勢に指導を行う。

指導の方法・進め方

原則土曜日に、1週間に1回の「個別指導」、1か月に一度の「全体ゼミ」を開催する。

10月-11月中旬：テーマ選定
特定課題研究で、「何を明らかにしたいのか」、院生との個別指導のなかでテーマを形づくる。

11月中旬-12月末：先行研究等収集
特定課題研究のテーマを、「どのように分析検証するのか」、類似事例の先行研究や白書などのデータ等を収集し、仮説、データ、分析手法、フレームワーク、等の検証方法を検討する。

1月上旬-1月中旬：構成検討
特定課題研究の章立てなど、論理的に表現できる「構成」を検討する。

1月中旬-3月：特定課題研究作成

研究の質を高めるための工夫

ツールの活用
原則、論理的思考法として一般的に活用されている、「マインドマップ」をもちいて、特定課題研究の構成要素を、目的、手段、機能、に可視化する。
感染症対策等を鑑み、TPOをみながら、オンラインを取り入れる。

積極的に受け入れたい院生像

「互学互修」を基本姿勢として、知識と実践から「経営の思考回路」を修養するために、じっくりと研究に取り組む院生を歓迎したい。

今までの研究指導実績の例・特徴

・本社と海外拠点のコミュニケーションについて、先行研究と諸データから分析をおこない、効果的な手法を検証した研究。
・某海外工場のリーン生産について、先行研究と諸データから分析をおこない、あるべき姿を検証した研究。
・地方ホテルの経営を、収益管理会計のフレームワークから分析し、あるべき姿について検証した研究。
・某特定地域における地方創生の手法を、RBV（リソースベースドビュー）から分析し、具体的施策を検証した研究。
・地方中小企業の成功事例要因を、過去10年間の諸データから分析し、有効的な経営戦略を検証した研究。
・ビジネスエコシステムの成功事例を、諸データから分析し、効果的な成果要因を検証した研究。

その他

テキスト:
・石井宏宗『ビジネス・ヒントの経営学』（2021）創成社
・P.F.ドラッカー『イノベーションと企業家精神』（2015）ダイヤモンド社

研究領域

経営戦略・事業戦略,生産戦略・購買戦略,技術戦略・研究開発戦略,販売・営業・マーケティング戦略,企業再生・M&A,事業承継,新事業創造・起業・創業,業務改革,人事・組織・リーダーシップ,国際化・グローバル化,その他

研究対象の業種

自動車・自動車部品,機械・機械部品,電気／電子・電気／電子部品,金属・金属加工,金型,エネルギー・環境関連,バイオ・医薬・メディカル機器,ヘルスケア・介護,素材（化学、紙・パルプ、鉄・非鉄金属）,消費財（食品、紙類、陶磁器、繊維・衣類、日用雑貨等）,情報（ITソフトウェア・SI・インターネット関連）,通信,小売・卸売・物流,宿泊・外食・サービス,公共・公益団体,その他,研究領域中心に

業種横断的に指導

研究対象の形態

個別企業（特定企業）,経済団体・業界団体、業界・業界団体,特定企業集団,その他

研究目的

課題解決策、改革・改善に向けた提案,現象を引き起こすメカニズムの解明,将来展望・予測,新たな手法の開発,企業振興施策、産業政策,その他

備考

私の人生テーマは、経営者・研究者・教育者の観点から、「経営とは何か」について探究することです。経営者としては、企業再生、企業承継、事業創造、起業などの一方で、リーマンショック、東日本大震災を経て、いまはパンデミックという経済環境に身をおいています。研究者では、38歳で学位を取得、その後も継続的な論文執筆を行い、日本経営実務研究学会などで理事を務めております。教育は35歳から15年間、いくつかの大学で教鞭を執って参りました。20有余年における、さまざまなるアングルからの経営観、それでもなお、経営とは何か、このテーマの解にたどり着くことは到底できません。ただし、数々のチャレンジと多くの失敗、そして僅かな成功から、「経営とは苦のなかでも夢と希望を投企して生きること」という仮説を抱いています。あまたの苦労のなかでも、一つの喜びが、ステイクホルダーの幸福に、微力ながらでも貢献できる、そのような経営という営みの本質を、NIT MOTにおいても、みなさんと共に学び、追い求めて参りたく思います。